学校だより　令和５年６月号　大津市立逢坂小学校　児童数４６７名

逢坂

人・自然と豊かに関わる子どもの育成
よく考える子ども
思いやりのある子ども
たくましい子ども
めざす学校像；笑顔あふれる学校

早くも新学期開始から２ヶ月が経ち、６月に入ります。登校してくる子どもたちも徐々にマスクを外す子が多くなり、明るい笑顔がよくわかるようになってきました。

先日、行いましたリレーフェスティバルには曇天の中、多くの保護者の方々に参観いただき、ありがとうございました。多くの応援を受けて、子どもたちは一生懸命にがんばることができました。子どもたちが持てる力を十分に発揮するには、晴れがましい場が大切なのだと改めて思いました。途中、降雨のためにしばらく中断し、お待たせしましたが、何とか予定どおりに実施することができました。ご理解、ご協力に感謝いたします。また、６月には音楽会を開催予定です。昨年度のように学年発表毎に保護者の入れ替えを行いません。トラブルなきようご鑑賞ください。（保護者間のトラブルには一切関知いたしません。）

徐々にコロナの影響も薄れ、水泳を始め、学習活動も制限少なくできるようになりました。熱中症など、引き続き健康安全面の配慮を忘れず、実施していきたいと思います。

※水筒のお茶が足りない子がいます。多めに持たせてくださいますようお願いします。

６月の行事予定

※予定の変更がある場合は学年通信でお知らせします。

1	木	登校指導　歯科検診 3,4 年 プール掃除予備日	16	金	音楽会
2	金		17	土	
3	土		18	日	
4	日		19	月	クラブ活動　食育の日　教育相談日
5	月	委員会活動	20	火	4 年校外学習（浄水場）選書会準備
6	火	4 年生ホールの子事業（音楽鑑賞）	21	水	選書会
7	水	エンジョイ活動（昼休み）	22	木	歯科検診 1，2 年 救命救急講習 5，6 年
8	木	プール開き　検尿二次 耳鼻科検診 3,4 年	23	金	5 年校外学習（ｵｰﾊﾟﾙ）
9	金		24	土	
10	土		25	日	
11	日		26	月	委員会活動　ベルマーク説明会
12	月	4,5,6 年 6 校時　教育相談日	27	火	
13	火	ブックママ・パパ　4 年川探検（下流）	28	水	打出ブロック挨拶運動 4 年パッカー車見学　下校指導
14	水		29	木	打出ブロック挨拶運動 耳鼻科検診 5，6 年　4 年川探検予備日
15	木	登校指導　音楽会前日準備	30	金	打出ブロック挨拶運動

校長室から　子どもがポジティブなことを話せる工夫を

先生方には、『昼休みに“みんな遊び”をしているのなら、間違っても「今日は、どんなことがうまくいかなかった？」と子どもたちに尋ねてはいけません。気の合う子もそうでない子もいる全員での遊びはうまくいかないのがあたりまえなのに、そんなことを尋ねたら喧々諤々、殺伐とした話し合いになること必定です。尋ねるなら、「今日は、どんなことがうまくいった？うまくいくために、誰が、どんな心遣いをしていた？」を尋ねてやってください。』と伝えています。私が伝えたいことは、ネガティブなことを尋ねると当然ネガティブな答えが返ってきて雰囲気も暗く落ち込んでいく･･･それは当たり前のことなのになぜ、ポジティブなことを尋ねないのか？ということです。話す行為が感情をつくり、クラスの雰囲気にも影響することがあるのです。

悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか？･･･悲しいから泣く、というのが一般的な理解です。しかし、19 世紀、アメリカの心理学者ジェームス・ランゲによってまったく異なる仮説が立てられました。それは、泣くという行為とそれに対応する生理的状態がまずあって、それが認知されることで悲しいという感情を引き起こす、というものです。感情の抹消起源説とかジェームス・ランゲ説と呼ばれています。泣く行為が悲しいという感情を引き起こす、というのです。感情の前に行為があるなんて、そんなアホな･･･という説ですが、気分が落ち込んでいるときに口角を上げて笑ったふりをしてみると、少し気分が軽くなったという経験はありませんか？私の敬愛する落語家、桂枝雀(かつらしじゃく)師匠も、ある落語の冒頭（まくら）で「みなさん、落語が面白かったら笑おうなんて魂胆ではいけません。まず、笑うのです。面白くなくても、笑うのです。すると、どんどん楽しくなるのです。ほんとうでございますよ。試しに背を丸くして前屈みになって、うっ、うっ、うえっ、と泣くまねをしてご覧なさい。どんどん悲しくなってきますから。どうかわたしの落語をお聴きになっても、笑わしてもらおうではなく、みずから笑おう！という態度でお願いします。」と言っています。枝雀師匠はきっと、感情の抹消起源説のことを知っておられたのだと思います。

感情のメカニズムについてはまだ未解明なため、この感情の抹消起源説は、いかなる時も正しいと立証されているわけではありません。しかし、悲しく暗く落ち込む話をわざわざ尋ねてまで子どもたちにさせると、陰性の感情が生まれるのはあたりまえです。ネガティブな話からでなく、どうやったらポジティブに、前向きに明るい話をすることができるか。私たちの質問の仕方一つで変わるのなら工夫をしてやってほしい、と思っています。では、ネガティブな話はしないのか？･･･わざわざ尋ねなくても子どもは、ポジティブな話の後に必要ならば話題にしてきます。「うまくいくために誰が、どんな心遣いをしていたか」というポジティブな話題の後なら、ネガティブな話にも解決の方向性が生まれるかもしれません。

マズい導きで子どもが口々にみんな遊びのうまくいかなかったこと、もめたことなどネガティブなことを発表するとします。すると、教師の感情は当然、子どもたちに引っ張られて、暗く沈んだ気持ちになります。教師は教室で子どもに向かい合って立っています。表情を子どもは見ていますから、伝染してますます暗いムードが蔓延します。「ポジティブなことから尋ねる」は、実は教師のためでもあるのです。